

# 県内関連企業 期待、喜びの声

## TSMC開所

### 行政もバックアップ

半導体受託製造最大の台湾積体回路製造(TSMC)の熊本工場(熊本県菊陽町)の開所式が24日に行われ、県内の半導体関連企業から期待の声が聞かれた。県も大分、熊本両市を結ぶ中九州横断道路の早期開通や人材育成などを通じ、波及効果を最大限に取り込みたい考えだ。(関屋洋平)

「30年の実績が評価され、(TSMCと)直接取引することになった。光栄だ」。同工場の半導体製造装置回りの電気配線工事を担うテック・エンジニアリング(大分市一木)の日野浩三

社長(62)はこう喜ぶ。1994年に創業し、これまで半導体製造大手と取引があり、半導体製造に欠かせない「クリーンルーム」で作業をこなすノウハウがあることから受注につながったという。昨秋から技術者を工場に派遣し、約20億円売り上げを見込む。TSMCは熊本県内での第2工場の建設を発表している。テック・エンジニアリングは引き続き工事を受

注するため、土地代を含めて約7億5000万円を投じて、来年度中に熊本県大津町に現地事業所を開設する計画だ。日野社長は「新たに大きな工場ができることへの期待は大きい」と意気込む。

民間の動きを行政もバックアップする。佐藤知事は20日の定例記者会見で「大分は半導体関連企業がたくさん立地しており、九州全体でも半導体分野の発展に大きく寄与できると歓迎する。その上で、工業用地の確保や人材育成、ベンチャービジネスの支援、中九州横断道路の早期完成に向けた取り組みを進める考えを示した。半導体関連企業などで行く県LSIクラスター形成推進会議の川越洋規会長(ジャパンセミコンダクター社長)は「大分の関連企業にとって新たなビジネスチャンスになる。推進会議としても積極的にサポートしたい」とコメントした。

TSMC進出への期待を語る日野社長

